

第4回日中哲学フォーラムでの報告を募集します

2006年に中国・杭州で第1回を開催して以来、日中哲学フォーラムは、哲学の原理的、また現代的な諸問題に日中共同で取り組む場となっており、また日本哲学会の国際交流活動の大きな柱の一つとなってきました。2009年の第2回（中国・遼寧）、2011年の第3回（日本・東京）に続く第4回フォーラムは、2014年の9月20-21日、中国・北京において開催する運びとなり、日本側では日本哲学会国際交流委員会が中心となり、中国側の窓口となる中国社会科学院と連絡を取りながら準備を進めております。

フォーラムでは、日中それぞれの側からの基調講演のほか、2つのテーマ別分科会、そして、若手特別分科会の開催を予定しております。今回、それぞれの分科会での報告を日本哲学会の会員より広く募集することにいたしました。各分科会では、日本側から4～6名程度の報告を想定しております。下記の要領に従い、予定論題と要旨を添えてお申し込みください。応募者多数の場合は、提出された論題と要旨により、国際交流委員会において選考を行ないます。

2014年2月10日

日本哲学会国際交流委員会

第4回日中哲学フォーラムの開催概要

開催日 2014年9月20日（土）・21日（日）

開催地 中国・北京

全体テーマ 日中の哲学者がともに考える

--哲学の原理的あり方と現代社会における役割

分科会

第1分科会 テーマ：日中思想の伝統とグローバル化のもとでの現代的展開

第2分科会 テーマ：哲学は現代のアジアと世界の問題にどう答えるか

--変化する社会と人間の生の条件

若手特別分科会 分科会テーマはとくに設定しません

使用言語 英語・日本語・中国語

若手分科会は英語のみの予定です。

他分科会でも、今回、中国側は英語の使用に非常に積極的です。

報告時間枠 1人あたり40分（発表25分、コメント・質問15分）

報告申込の要領

以下の事項を明記の上、予定論題と要旨（日本語の場合200-300字、英語の場合100-150語）を添えて、日本哲学会事務局あて、電子メールでお送りください。

氏名・所属・職位・報告を希望する分科会・報告での使用言語

なお、若手特別分科会で報告できるのは、フォーラム開催時点で39歳以下の方とさせていただきます。（科学研究費の「若手研究（A・B）」の応募要件に準じます。

申込〆切 2014年2月28日（金曜日）

申込先 日本哲学会事務局（nittetu@philosophy-japan.org）

報告の可否は、3月中旬に申込者あて通知します。

報告が決定した方には、5月末〆切で完全原稿を提出していただきます。

本フォーラムにかかる経費については、日本学術振興会の助成を申請しておりますが、採択の可否をふくめ未定の部分が多いため、参加される方の旅費については、基本的に各自の研究費等による支出をご予定いただくようお願いします。